

新型車内補充券発行機(DTC800)

西日本旅客鉄道株式会社の車内補充券発行機の更新にあたり、株式会社JR西日本テクシアと次世代機器としてDTC800を共同開発し、納入した。

DTC800は、2012年に納入した一世代前のDTC700に比べ、昨今のニーズに応え、さまざまな機能を盛り込んだ。外観上の一番の特長は操作キーを廃止し、タッチパネル方式とした点である。今や、だれもがスマートフォンを所有する時代となってきたことに合わせ、係員の世代感覚にマッチした操作感を得られる機器となっている。また、車内補充券発行機では初のクレジットカード対応、ICカードによる支払に対応している。そのほか、通信速度の高速化、端末セキュリティの向上等、前機種とは一新された次世代機として更新投入された。

西日本旅客鉄道株式会社向けとしては、約2,600台の大量納入となり、さらに、ほかのJR各社、民鉄各社に市場展開を計画している。



■ 車内補充券発行機(DTC800)

定期券発行機(TID6000)

東京都交通局の機器更新の年度にあたり、TID6000をIC駅端末機として納入した。この機種のベースは昨年開発し、すでに横浜市交通局向けに対して納入実績のあるものであったが、今回、東京都交通局向けに103台の大型案件として対応した。

TID6000は定期券発行機として開発し、IC定期券の発行機能を有しているが、東京都交通局では、駅構内の再発行業務を主とする使われ方をされているものである。

前機種のTID5500から、サイバネセキュリティ認証取得、PASMOモジュール搭載、クレジット機能を本体に取り込み等の特長を持っている。

今年度は、そのほかの民鉄各社の更新にも対応した。そのなかで、関東地区のIC化では、2009年の関東鉄道株式会社ほか3事業者の導入以来、久々となる湘南モノレール株式会社(以下湘南モノレール)のIC化オープンへの対応もこのTID6000にて行った。湘南モノレールの導入により、関東地区の鉄道事業者は、ほぼ導入済みとなるため、湘南モノレールとしては念願のIC化であった。このため、盛大にオープン記念式典が催され、当社もその歴史的イベントの一端を担うことができた。

今後、さらなる改造を加え、強固なラインナップの主機種としての確立を図っていく。



■ 定期券発行機(TID6000) (キャビネットタイプ)



■ 定期券発行機(TID6000) (デスクタイプ)